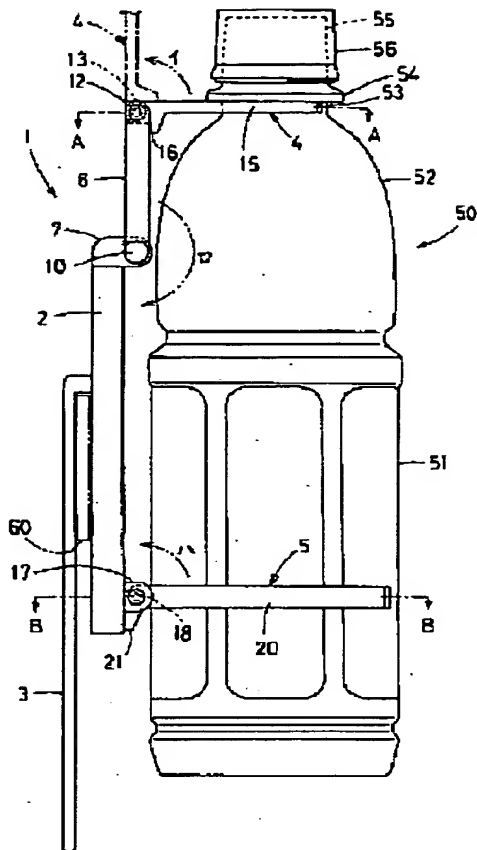


## Patent Abstracts of Japan

TITLE : BOTTLE HOLDER



COPYRIGHT: (C)2000,JPO

**THIS PAGE BLANK (USPTO)**

(19)日本国特許庁 (J P)

(12) 公開特許公報 (A)

(11)特許出願公開番号

特開2000-4942

(P2000-4942A)

(43)公開日 平成12年1月11日(2000.1.11)

(51)Int.Cl.<sup>7</sup>

識別記号

F I

テーマコード\*(参考)

A 4 5 F 5/00

A 4 5 F 5/00

A 4 5 C 13/00

A 4 5 C 13/00

M

審査請求 未請求 請求項の数2 O L (全 7 頁)

(21)出願番号

特願平10-178196

(22)出願日

平成10年6月25日(1998.6.25)

(71)出願人 598084208

垣内 賢

和歌山県日高郡川辺町山野644番地

(72)発明者 垣内 賢

和歌山県日高郡川辺町山野644番地

(74)代理人 100047831

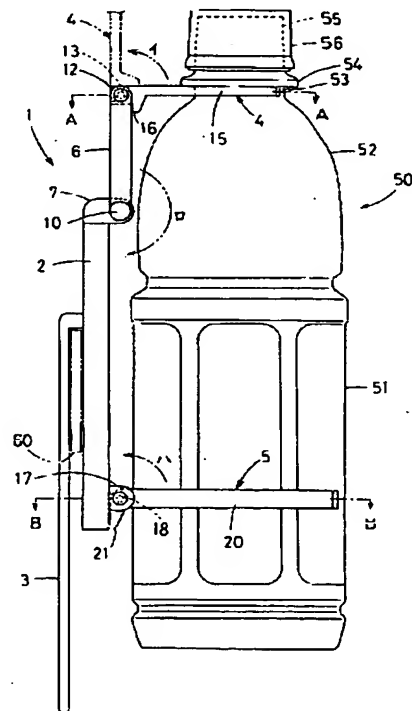
弁理士 杉本 巖 (外1名)

(54)【発明の名称】 ボトル保持具

(57)【要約】

【課題】 飲料水が入ったボトルを携帯する場合に用いると、両手が自由に使えるて便利であり、しかも、必要なときに直ちに且つ極めて容易にボトル内の飲料水を飲むことができるボトル保持具を提供すること。

【解決手段】 ボトル保持具1は、背面側にズボン等のベルト60に装着可能なクリップ部3を有するベース部2と、このベース部2の前面側の上部に設けられボトル50の首部53を係脱可能に挟持する略C字状の首部挟持体4と、ベース部2の前面側の下部に設けられボトル50の胴部を係脱可能に挟持する略C字状の胴部挟持体4とを備えている。首部挟持体4及び胴部挟持体4は、ベース部2の前面側に突出する挟持位置とベース部2の前面に沿う折り畳み位置との間を回動可能に枢支されている。



## 【特許請求の範囲】

【請求項1】 筒状の胴部の上方に首部及び外向きのフランジ部を介して口部が形成されているボトルを保持する保持具であって、背面側にズボン等のベルトへの装着手段を有するベース部と、このベース部の前面側の上部に設けられ前記ボトルの首部を係脱可能に挟持する略C字状の首部挟持体と、前記ベース部の前面側の下部に設けられ前記ボトルの胴部を係脱可能に挟持する略C字状の胴部挟持体とを備えたことを特徴とするボトル保持具。

【請求項2】 首部挟持体及び胴部挟持体が、ベース部の前面側に突出する挟持位置とベース部の前面に沿う折り畳み位置との間を回動可能に枢支されている請求項1に記載のボトル保持具。

## 【発明の詳細な説明】

## 【0001】

【発明の属する技術分野】本発明は、例えば清涼飲料水、ジュース、コーヒー、紅茶、緑茶等の飲料水が入ったボトルを携帯する場合に好適なボトル保持具に関するものである。

## 【0002】

【従来技術】従来、前記のような飲料水は主として内容量250～350ml程度のスチール缶又はアルミニウム缶に収容して販売されていたが、最近では内容量500mlのPET樹脂製ボトル（以下「ペットボトル」という）に収容した状態で販売される率が飛躍的に増加してきている。この理由として、例えば、缶であれば開封後は内容量の全部を一度に飲み切らなければならないのに対し、ペットボトルは開封後も口部を密閉可能なキャップを備えているので、所望の量ずつ複数回に分けて飲むことができ、好都合であることが挙げられる。

【0003】また、特に内容量500mlのペットボトルが普及してきたのは、例えば内容量1500mlや2000mlのペットボトル入り飲料水の場合は重量が嵩み、且つボトルの胴部の直径が大きすぎて、取り扱いが困難なのに対し、500mlのペットボトルなら飲料水が一杯に入っても比較的軽量であり、且つ胴部も手のひらで容易に把持できる程度の直径であって、水筒代わりに携帯したり、ボトルから直接飲料水を飲んだりすることが容易にできるためであろうと考えられる。

## 【0004】

【発明が解決しようとする課題】しかしながら、このように便利な500ml入りペットボトルにも以下のような問題があった。すなわち、ボトルをリュックサック等に入れて携帯した場合、飲料水を飲むときにボトルをリュックサック等から取り出すのに手間がかかることになり、片手が塞がっているような状況ではボトルが取り出せず、飲みたくても飲めない場合があった。他方、ボトルを手で保持して携帯した場合は、手から伝わる体温でボトル内の飲料水が温まってしまう欠点があり、また、

ボトルを保持している手の手が使えないために不便であるという問題もあった。

【0005】本発明は以上のような問題に鑑みてなされたものであって、例えば飲料水が入ったボトルを携帯する場合に用いると、両手が自由に用いて便利であり、しかも、必要なときに直ちに且つ極めて容易にボトル内の飲料水を飲むことができるボトル保持具の提供を目的とするものである。

## 【0006】

【課題を解決するための手段】前記目的を達成するため、本発明に係るボトル保持具は、筒状の胴部の上方に首部及び外向きのフランジ部を介して口部が形成されているボトルを保持するものであって、背面側にズボン等のベルトへの装着手段を有するベース部と、このベース部の前面側の上部に設けられ前記ボトルの首部を係脱可能に挟持する略C字状の首部挟持体と、前記ベース部の前面側の下部に設けられ前記ボトルの胴部を係脱可能に挟持する略C字状の胴部挟持体とを備えたものである。

【0007】また、前記構成において、首部挟持体及び胴部挟持体が、ベース部の前面側に突出する挟持位置とベース部の前面に沿う折り畳み位置との間を回動可能に枢支されているものである。

## 【0008】

【発明の実施の形態】以下、本発明の一実施形態を図1～図9に基づいて説明する。図において、符号1は、この実施形態に係るボトル保持具を、符号50は内容量500mlのペットボトル（ボトルの一例）を、それぞれ示している。図1に示すように、このペットボトル50は、略六角筒状の胴部51の上方に、肩部52、首部53、フランジ部54、口部55が順次形成されている。フランジ部54は首部53と口部55との間から、外向きに張り出した状態に周設されている。口部55は上端が開いた略円筒状に形成され、その外周面にはネジ山（不図示）が突設されるとともに、このネジ山を用いてキャップ56が螺着されている。

【0009】また、ボトル保持具1は矩形板状のベース部2を有し、このベース部2の背面側にはズボン、スラックス、パンタロン、スカート等（以下「ズボン等」と総称する）のベルト60にボトル保持具1を装着するための、側面視逆L字状のクリップ部3（装着手段の一例）が突設されている。このクリップ部3は装着時にズボン等と接触して安定性が良くなるように、ベース部2の下端よりも下方に長く延長され、且つ、装着者に痛みを与えないために、その下端部3a（図2参照）は角部を有しない略半円形の正面形状に形成されている。

【0010】ベース部2の前面側には、首部挟持体4と胴部挟持体5とが設けられている。首部挟持体4は、ベース部2の上端に連結部材6を介して枢支されている。より具体的に説明すると、図1、図2、図5、及び図6からわかるように、ベース部2の上端面に左右一対の支

持片7が立設されるとともに、連結部材6の下端からは左右一対の突片8が垂設され、各支持片7とその外側に位置する突片8とを内側から外向きに貫通するピン9が、それぞれ設けられている。図5及び図6に示すように、各ピン9は、頭部側の四角柱状部9aと、先端側の円柱状部9bとを連結して構成されている。また、支持片7及び突片8に形成されたピン孔7a及び8aは、ピン9の四角柱状部9aと嵌合する四角孔形状に形成されている。さらに、円柱状部9b先端に押圧操作部10が固着されるとともに、この押圧操作部10と突片8との間の円柱状部9b外周には圧縮型のコイルバネ11が嵌め込まれている。以上により、通常は図5のようにピン9の四角柱状部9aがピン孔7a及び8aと嵌合することで連結部材6の回転は防止されているが、一対の押圧操作部10を両側から挟みつけるように押圧すると、図6のようにコイルバネ11の付勢力に抗しピン9が内向きに移動して四角柱状部9aとピン孔8aとの嵌合状態が解除され、連結部材6はピン9の円柱状部9bを軸として回転可能となるように構成されている。

【0011】連結部材6の上端には左右一対の軸受部12が突設され、図3に示すように、これら軸受部12に両端を支持された回転軸13により、前記首部挟持体4が回転可能に枢支されている。首部挟持体4は、基部14と一対の挟持片15とから平面視略C字状に形成されている。各挟持片15は弾性変形可能な合成樹脂により基部14と一体に形成され、ボトル50の首部53の外径よりも若干狭い間隔で相互に対向しており、これら挟持片15の相互間に首部53を押し込むと各挟持片15は外向きに押し広げられ、その弾性復元力により首部53を挟持するようになっている。首部53の押し込みを容易にするため、各挟持片15の先端部は斜め外方に広がる形状となっている。さらに、基部14の下面には、連結部材6と衝合して、首部挟持体4が水平よりも下方に回転するのを防止する衝合突起16(図1、図2参照)が突設されている。

【0012】他方、ベース部2の下端近傍の前面には左右一対の軸受部17が突設され、図4に示すように、これら軸受部17に両端を支持された回転軸18により、前記胴部挟持体5が回転可能に枢支されている。胴部挟持体5は、基部19と一対の挟持片20とから、ボトル50の胴部51の外径よりも若干小さい内径の環を一部切り欠いたような大きさの平面視略C字状に形成されている。各挟持片20は弾性変形可能な合成樹脂により基部19と一体に形成され、これら挟持片20の内方に胴部51を押し込むと各挟持片20は外向きに押し広げられ、その弾性復元力により胴部51を挟持するようになっている。胴部51の押し込みを容易にするため、各挟持片20の先端部は斜め外方に広がる形状となっている。また、基部19の下面には、ベース部2と衝合して、胴部挟持体5が水平よりも下方に回転するのを防止

する衝合突起21(図1、図2参照)が突設されている。

【0013】このボトル保持具1を使用する場合には、首部挟持体4及び胴部挟持体5を、それぞれベース部2の前面側に略水平に突出する挟持位置まで予め回転させておくとともに、ズボン等のループに通したベルト60とズボン等との間に上方からクリップ部3を差し込み、図1のようにベース部2の背面とクリップ部3との間隙の上端にベルト60が位置する状態に、ボトル保持具1をベルト60に装着する。そして、首部挟持体4の先端部にペットボトル50の首部53を、胴部挟持体5の先端部にペットボトル50の胴部51を、それぞれあてがった状態で、ペットボトル50をベース部2向きに押さえ付ける。これにより、首部53が首部挟持体4の挟持片15、15間に、胴部51が胴部挟持体5の挟持片20、20間に、それぞれ側方から押し込まれて挟まれ、ペットボトル50はボトル保持具1に保持される(図1及び図7参照)。

【0014】また、ペットボトル50内の飲料水を飲む場合には、片手でペットボトル50を掴んでベース部2から離す方向に引っ張り、各挟持片15及び20を外方に弾性変形させて、首部53及び胴部51を首部挟持体4及び胴部挟持体5から引き抜く。これにより、ペットボトル50がボトル保持具1から取り外される。そして、飲料水を飲んだのち、ペットボトル50内に飲料水が残った場合には、再びキャップ56で口部55を密封して、前記と同様にボトル保持具1にペットボトル50を保持させておく。

【0015】このボトル保持具1は以上のように構成されているので、以下のような利点を有している。すなわち、ベルト60にボトル保持具1を装着し、このボトル保持具1にペットボトル50を保持させるので、保持状態では両手が自由に使える。また、ボトル保持具1が腰の側方ないし斜め後方に位置するようにしておけば、ボトル保持具1及びペットボトル50が動作の邪魔になりにくい。また、首部挟持体4が首部53を、胴部挟持体5が胴部51を、それぞれ挟持するとともに、首部挟持体4の上面がフランジ部54の下面に当接して、フランジ部54を下方から支持するので、保持状態が安定しており、歩いているときはもちろんのこと、少々走ったり飛び跳ねたりしても、身体を屈めたり曲げたりしても、ボトル保持具1からペットボトル50が外れることがなく、且つ、例えば紐等で首から吊り下げている水筒のように、ぶらぶらと動揺して邪魔になることもない。さらに、ペットボトル50のボトル保持具1への装着及びボトル保持具1からの取り外しは、片手でペットボトル50を掴んでベース部2側に押し付けたり、その反対向きに引っ張ったりするだけの極めて容易な動作で行なえるので、必要なときに直ちにボトル保持具1からペットボトル50を取り外して、内部の飲料水を飲むことができ

る。

【0016】したがって、旅行時や外出時にペットボトル50を携帯する場合は言うまでもなく、例えば高所に登って作業をする者や、農作業をする者や、釣り人や、ハイキング、キャンプ等のアウトドア活動をする者等がペットボトル50を携帯する用途にも極めて好適に用いることができる。

【0017】また、ペットボトル50は、背面側が身体に對面するベース部2の前面側に保持されるので、ペットボトル50と身体との間には常にベース部2が介在し、両者が直接的に接触することはない。したがって、体温でペットボトル50内の飲料水が温まったり冷えたりすることはなく、且つ、ペットボトル50表面の冷たさ又は熱さが装着者に不快感を与えることもない。

【0018】また、仮にペットボトル50の胴部51を適宜な内径の環状体に挿嵌して支持するような構成であると、胴部51を環状体に挿嵌したのち首部53を首部挟持体4に挟持させなければならず、着脱操作が面倒になるとともに、胴部51の外径によっては環状体への挿嵌が不可能だったり、胴部51外周面と環状体内周面との間に隙間が生じて支持状態が不安定になるおそれがあるのに対し、このボトル保持具1では胴部51を弾性変形可能な胴部挟持体5で挟持しているので、胴部51の外径がある程度異なる場合にも、胴部51が六角筒状以外の形状（例えば四角筒状や円筒状）である場合にも、支持状態が不安定になることはない。もちろん、内容量を増やすために胴部51を下方に延ばしたペットボトルであっても、同様に保持が可能である。

【0019】そして、飲料水を飲み切った等で、ボトル保持具1にペットボトル50を保持する必要がなくなった場合には、先ず図1に矢印イで示したように首部挟持体4を直立状態まで回動させたのち、一対の押圧操作部10を両側から押圧しながら連結部材6を矢印ロで示したように下向きに回動させるとともに、胴部挟持体5を矢印ハで示したように上向きに回動させることにより、図8及び図9に示したように、首部挟持体4及び胴部挟持体5をベース部2の前面に沿う折り畳み位置まで回動させた状態とできる。

【0020】このようにボトル保持具1を折り畳めば、不使用時にベルト60に装着したままであってもボトル保持具1が邪魔になることがなく、また、首部挟持体4や胴部挟持体5が他の物に当たって破損するおそれもない。また、ボトル保持具1をベルト60から取り外して鞆等に収容する場合にも、大きな収容スペースを必要とせず、コンパクトに収容できる。

【0021】ところで、本発明のボトル保持具が以上に説明した実施形態に限定されないことは言うまでもなく、例えば前記ではベルトへの装着手段をクリップ部3で構成したが、装着手段はボトル保持具をベルトに装着することさえできれば如何なる構成でもよく、例えば図

10(a)のように上端部をベース部2背面に固着された可撓性を有する带状体30と、この带状体30の下端部とそれに対向する位置のベース部2背面とにそれぞれ取り付けられた面ファスナ31とからなり、带状体30とベース部2との間にベルト（不図示）を挟み込んで各面ファスナ31を互いに係合させることにより、ボトル保持具をベルトに装着するような構成でもよい。また、図10(b)のようにベース部2背面に、ベルトを挿通可能な空間32を形成する略コ字状のベルト通し33を固設し、いったん外したベルトをその端部から空間32に挿通して装着するようにした装着手段であってもよい。

【0022】また、前記では首部挟持体4及び胴部挟持体5を合成樹脂で形成したが、首部挟持体及び／又は胴部挟持体は、例えば弾性変形可能な金属バネ板を略C字状に成形したものであってもよい。さらに、前記ではボトル保持具1の不使用時の折り畳み状態をより一層コンパクトにするために、首部挟持体4は連結部材6を介してベース部2に枢支したが、首部挟持体4をベース部2の上端部に直接枢支する構成であっても、もちろん構わない。さらにまた、以上ではペットボトル50を保持する場合について説明したが、本発明のボトル保持具はPET以外の合成樹脂製又はガラス製のボトルを保持するものであってもよい。

【0023】

【発明の効果】以上説明したように、本発明のボトル保持具にあっては、ズボン等のベルトにボトル保持具を装着し、このボトル保持具にボトルを保持させるので、保持状態では両手が自由に使えて便利であり、また、首部挟持体4がボトルの首部を、胴部挟持体5がボトルの胴部を、それぞれ挟持するとともに、首部挟持体4の上面がボトルのフランジ部の下面に当接して、フランジ部を下方から支持するので、保持状態が安定していて、ボトル保持具からボトルが外れることがなく、且つ、例えば紐等で首から吊り下げている水筒のように、ぶらぶらと動揺して邪魔になることもない。また、ボトルの着脱は、片手でボトルを掴んでベース部側に押し付けたり、その反対向きに引っ張ったりする極めて容易な動作で行なえるので、例えば飲料水が入ったペットボトルを保持したような場合には、必要なときに直ちにボトル保持具から取り外して、内部の飲料水を飲むことができ、極めて好都合である。さらに、保持したボトルと身体との間にはベース部が介在するので、体温でボトル内の飲料水が温まったり冷えたりすることがなく、且つ、ボトル表面の冷たさ又は熱さで装着者が不快感を覚えることもない。

【0024】また、首部挟持体4及び胴部挟持体5が、ベース部の前面側に突出する挟持位置とベース部の前面に沿う折り畳み位置との間を回動可能に枢支されているので、ボトルを保持しない不使用時にはボトル保持具をコンパクトに折り畳めて、ベルトに装着したままであってもボトル保持具が邪魔になることがなく、首部挟持体や

胴部挟持体が他の物に当たって破損するおそれもない。  
また、折り畳み状態とすれば、ボトル保持具をベルトから取り外して鞆等に収容する場合にも大きな収容スペースを必要とせず、コンパクトに収容できる。

【図面の簡単な説明】

【図1】本発明の一実施形態に係るボトル保持具及びこのボトル保持具に保持されたペットボトルを示す側面図である。

【図2】ボトル保持具の正面図である。

【図3】図1のA-A線における切断部端面図である。

【図4】図1のB-B線における切断部端面図である。

【図5】図5(a)は図2のC-C線における概略拡大断面図、図5(b)は図5(a)のD-D線における断面図である。

【図6】ピンを内方へ移動させた状態を示す図であって、図6(a)は図5(a)に相当する切断面で示した概略拡大断面図、図6(b)は図6(a)のE-E線における断面図である。

【図7】ボトル保持具の使用状態を示す斜視図である。

【図8】ボトル保持具の折り畳み状態における側面図で

ある。

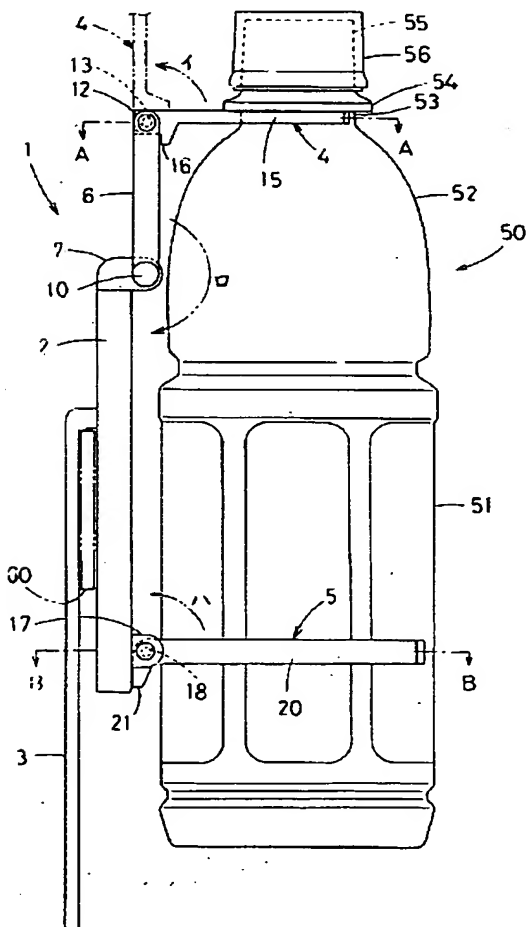
【図9】ボトル保持具の折り畳み状態における正面図である。

【図10】装着手段の別例を示す要部概略側面図である。

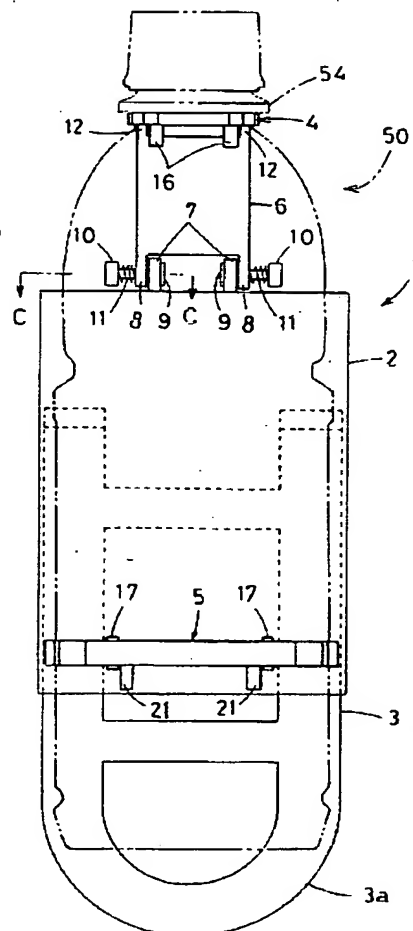
【符号の説明】

- |    |                |
|----|----------------|
| 1  | ボトル保持具         |
| 2  | ベース部           |
| 3  | クリップ部（装着手段）    |
| 4  | 首部挟持体          |
| 5  | 胴部挟持体          |
| 30 | 帯状体（装着手段の一部）   |
| 31 | 面ファスナ（装着手段の一部） |
| 33 | ベルト通し（装着手段）    |
| 50 | ペットボトル（ボトル）    |
| 51 | 胴部             |
| 53 | 首部             |
| 54 | フランジ部          |
| 55 | 口部             |
| 60 | ベルト            |

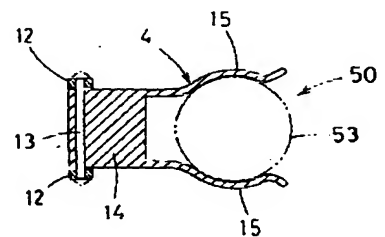
【図1】



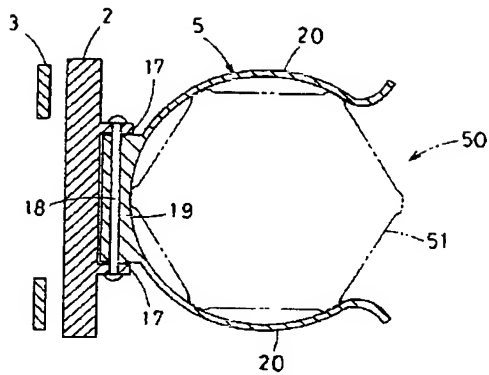
【図2】



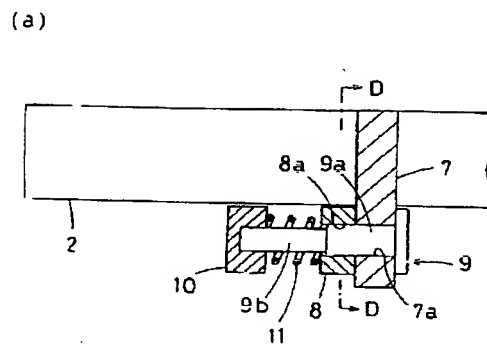
【図3】



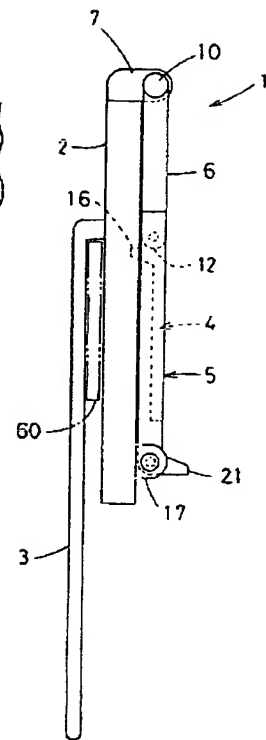
【図4】



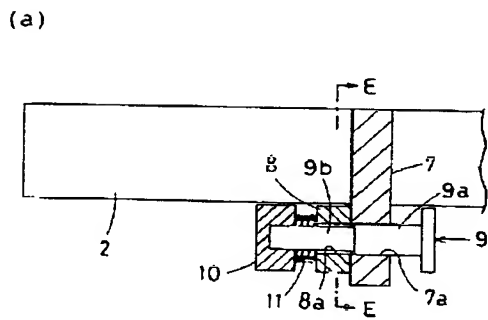
【図5】



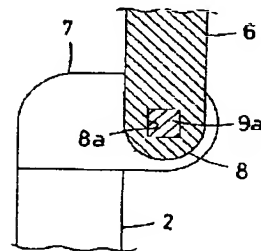
【図8】



【図6】



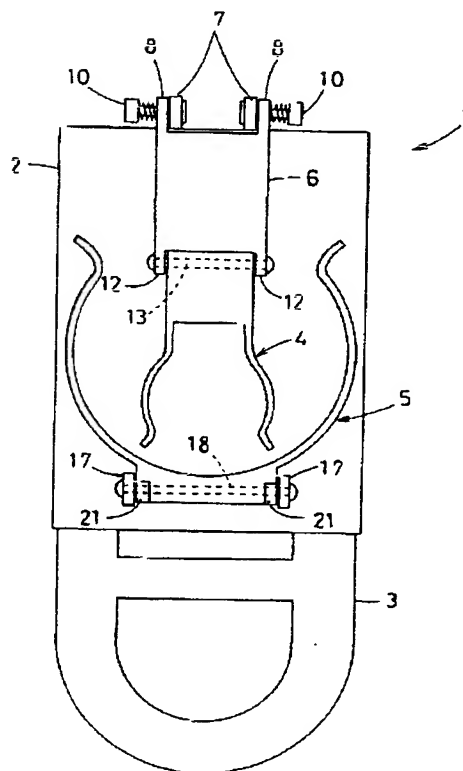
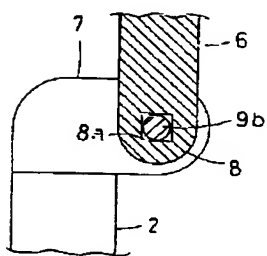
(b)



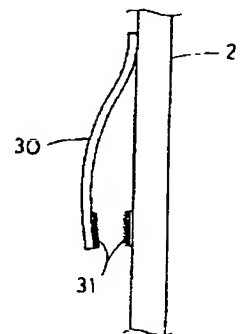
【図9】

【図10】

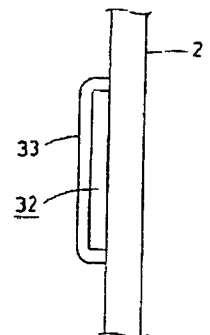
(b)



(a)

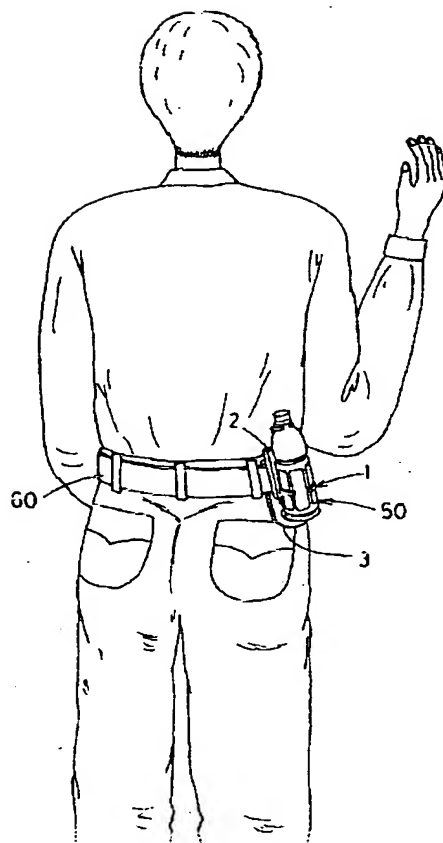


(b)





【図7】



**THIS PAGE BLANK (USPTO)**